

令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 光貞 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和3年6～7月に、5年生を対象として、「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。運動習慣は、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本年度、本市においては「体力・運動能力」についての調査は実施していません。

1. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

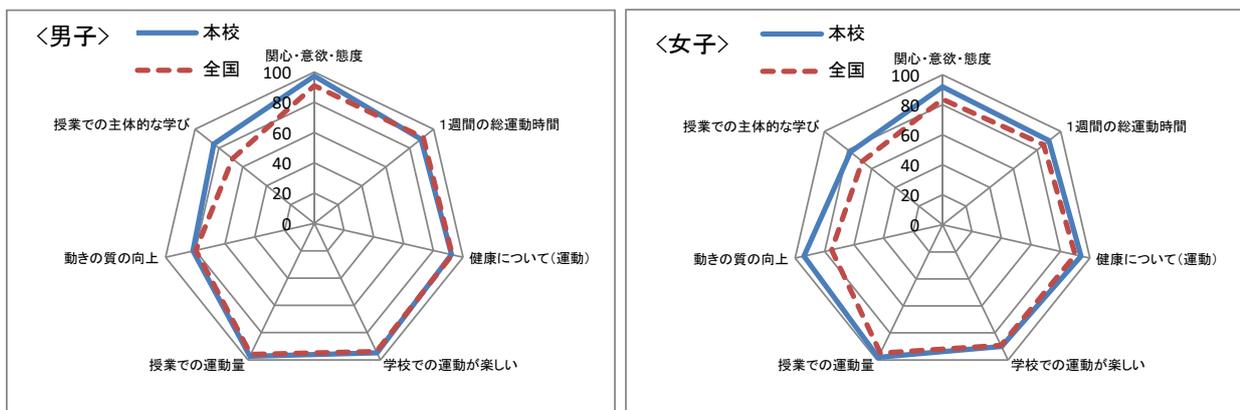
2. 本市における調査内容

- (1) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

男女共にほぼ全ての項目が全国平均を上回る結果となった。これは、日頃の体育科の学習の中で、準備運動を丁寧に行っていることや1単位時間の中での運動量の確保を十分に行うことを全校で取り組んでいる成果と考える。ただ、全体的に低い「主体的な学び」や「動きの質の向上」については、取り扱う種目の効果的な動きについて児童に思考させるなど授業展開の工夫を行いながら、「主体性や動きの質の向上」を図っていく必要がある。また、前回の調査より「1週間の総運動時間」が減っている。これは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により外遊びが減っているからと考えられる。今後、子どもたちの体力低下を防ぐためにも、体育科学習の中で、運動する喜びを味合わせる活動を工夫していくことや天気の良い日は、外遊びを推奨するなど改善を図っていききたい。

4. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

現在行っている、「丁寧な準備運動の実施」「運動量の確保」を今後も継続していくとともに、新学習指導要領に示す、効果的な取組を実施したり、本市で推進している「体力向上プログラム」を積極的に取り入れたりしながら、「主体的な学び」や「動きの質の向上」を重点的に取り組んでいきたい。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

新型コロナウイルス感染症拡大のため、全校一斉での取組は実施できていないが、各学級で短縄を活用した体力向上の取組を行っている。今後は、休み時間を短縄タイムを取り入れる(曜日・時間帯ごとに実施学年を指定)など、感染状況を見ながら、本校の児童の体力向上・運動習慣の取組を実施していく。